

長期学外学修を支える新しい仕組み

長崎短期大学

田中 茉琴・富永 誉子

1 概要

短期大学の人材育成の目的は地域の職を支える人材を育成することである。

本取り組みで、学年暦をクォーター制にし2年間の学びを8つのターム（準備・導入・実践・検証・定着・応用・発展・完成）にする。それに伴いそれぞれのタームに準ずる科目を配置する大幅なカリキュラム改革を行う。その中で学修効果を定着させるために、実践ターム（1年次の8月～11月）を重点的に、佐世保市と連携したAwesome Sasebo! 事業を展開し、学生を地域にだし、実際に肌で感じる地域と密着した課題解決型学外実習に取り組む。その体験学習を一過性のものとして終わらせないためにそれ以降のタームで学問的な定着を図る科目を配置する。学生自身が問題発見をし、学問的に解決していく力を身につけさせる。

2 事業の実施体制

学年暦をセメスター制からクォーター制にし、学外学修体験の円滑な実施とその成果を確認するため①教学改革②学生の活動③学修成果の測定④学外実習先・留学先との連携⑤教職員の資質向上⑥評価体制の6項目をキーワードとして、教育課程の「実質化」と学修成果の「見える化」に取り組んできた。平成27年度に学長のガバナンスの下事業を推進するため、国際交流・地域連携委員会の中に「Awesome Sasebo! Project推進室」を設置した。また、平成28年度には全学の教学改革を行うことを目的とした「大学改革委員会」を設置した。その中でPDCAに基づいた教育改善のサイクルである学生の“学びのループ”と教職員の“教学マネジメント改善ループ”を連動させるシステムを構築し、一人ひとりの学生の学びを支えるエンrollment・マネジメントを行っている。

3 取り組み内容・成果

(1) 平成30年度時点で長期学外学修プログラムに参加した学生は、3学科全体の学生数483名のうち463名である。これは全体の95%に達し、目標としていた75%を大きく超えて達成することができた。

(2) 長期学外学修プログラムを経た学生のGPAは、平成30年度の実績としては2.7ポイントとなり、目標数値にはわずかに及ばないながらも回復の傾向が見られる。この流れのまま、平成31（令和元）年度には各学科での指導を徹底し、学外活動前の事前学習や学外学修で学んだ内容の定着を図り、GPA数値のより一層の向上を目指す。

(3) 退学率、(5) 進路決定の割合についてはどちらも、数値上はわずかながらの鈍化がみられた。とはいえ、進路決定割合は目標数値の100%を0.5%のみ下回った程度であり、また退学率は目標の範囲内に十分おさまっている。最終年度はさらなる実績向上をめざし、進路決定率の100%到達と、退学率について継続して3.0%未満の両方を実現させることに努める。

(4) 学生の授業外学修時間は11時間と、前年度の実績から倍以上に増加した。

(6) 学生が企画する活動は、平成30年度において全学科合計では29件と前年度の18件に比べ格段に増加し、目標としていた16件を達成することができた。

AP事業の推進を通して、学科という学問領域の垣根をとりはらい、「地域共生」という共通した理念のもとで、学生の特性や志望する資格取得を可能とする教育課程を作ることが、本学に求められている人材を育成するために必要であるという結論に至った。その結果、大学改革の加速として地域共生学科食物栄養コース、製菓コース、介護福祉コース、国際コミュニケーションコースを設置することを機関決定し、新たな枠組みのもと、地域で活躍する人材育成に一層取り組む。